


橘町なごや歴まちびとステーション事業 柏彌紙店イベント 報告

	日 時	平成 27 年 11 月 28 日 (土)	自由見学 10:00～15:30 イベント第 1 回 11:30～12:00 第 2 回 15:00～15:30
	場 所	柏彌紙店 (名古屋市中区橘 1 丁目 4-6)	
	出席者	イベント参加者 第 1 回・2 回とも 20 名程度	

1 階みせ (襖ショウルーム) 内部までの自由見学は 10:00～15:30、2 階茶室・座敷見学と解説、和紙講話のイベントは午前、午後の 2 回開催。

1 階みせでは事前に準備していただいた和紙サンプル、壁に展示してある襖見本や表具用道具等を自由に見ていただきましたが、当日使われていた火鉢や鉄瓶など昔懐かしい調度品に興味を示される見学者の方々もたくさんみえました。

同事業の崇覚寺イベントに連動したタイムスケジュールで行われた 2 回のイベントでは、参加された方めいめいに 2 階へ上がっていただき、担当の歴まちびと会員が随時この建物の特徴や使用されている襖紙などの説明を行いました。程なくして崇覚寺イベントでも解説をしていただいた尾関社長が戻ってみえて、和紙に関するレクチャーが広間にて開始されました。

- ・障子のもともとの意味は、「障」へだてる、「子」動くもの、つまり可動の間仕切りの総称であること
  - ・障子は襖障子、唐紙障子、明り障子の三種に分類される
  - ・襖障子は絵のためのキャンパスであり、絵師を雇うことが可能な権力者や財力保有者が使う建具であること
  - ・唐紙は茶室や数寄屋建築で使われ、一般の町屋にも広がり総柄模様などデザインも多様に発展していった
  - ・昔は大判紙などなかったのが継貼りせざるを得ず、それを優れたデザインに昇華した例が桂離宮の市松模様である
  - ・唐紙の柄は琳派からの引用が多く、日本人として馴染み深い一方、現代的なセンスも持ち合わせている
- などなど興味深いお話が続き、予定時間はあっという間に過ぎてしまいました。

尾関社長のお話はもちろんのこと、数々のこだわりや工夫が込められた茶室や座敷の造り、事前に設えていただいたいけばなや掛け軸、昔の襖紙柄の切抜き資料など見応え、聞き応えのある内容で参加者の方々も充実した時間を過ごされたように感じられました。

講師

(有) 柏彌紙店社長 尾関和成 様

誘導・案内・説明係 (以下会員敬称略)

なごや歴まちびとの会 山田浩喜、今井史朗、大橋俊夫、後藤宣正、志賀勝則、水谷豊治、山口敬子、吉田勝代  
加藤昌之、脇田泰史



第1回橋町なごや歴まちびとステーション事業 平成27年11月28日

- 歴史と伝統「和紙との出逢い」橋町 -

(文責：大橋)